

# Nippon ビジネス戦記

サンジーヴ・スィンハ



## 企業と留学生のミスマッチ

先日、約20人のインド人留学生がいる石川県の北陸先端科学技術大学院大学を訪ね、デリー大学から来ている学生と話をした。「大学の設備がすばらしい」「部屋の鍵をかけなくても大丈夫なんですすごい」……。科学者を目指す彼らは、日本の最先端の設備や治安の良さに驚いていた。

東京大学の今年の五月祭では、インド人留学生が作ったマサラチャイ(スパイス入りのミルクティー)やアルティキ(インドで人気のスナック)をおいしく食べた。5年ほど前、東大の先生から「どうすればインド人留学生を増やせるか」と相談を受けたが、今では50人ほどのインド人留学生が東大で学ぶ。東大は今年2月、インドに事務所を開き、日本への留学をサポートする拠点も作った。

各国から留学生を呼び込む動きが日本の大学で活発になってい

る。ただ、その留学生たちが日本でスムーズに働けるかということ、どうだろう。日本企業が優秀なインドの人材を求めているという話は聞くが、留学生から見ると、今も根強い日本の終身雇用や年功序列といった企業文化になじめないのが現実だ。日本の学生と同じ就職活動をして、どの部署に配属されるのか、自分の得意な分野が活かされるかがわからない。

一方、日本企業の「国際事業部」や「新規事業開発部」といった部署の人と直接話をすると、日本に来ている留学生や海外留学経験がある日本人を即戦力として求めていることがわかる。従来の「シェーカツ」にとらわれず、留学生と日本の企業がつながる採用を望みたい。それが日本企業のグローバル化にもつながるだろう。

(サン・アンド・サンズ アドバイザーズ社長)